

帰国研修員便り

【帰国研修員の現地活動状況】



母国（コソボ）で Work Shop を開催し
研修成果を報告された帰国研修員の皆さん



- 1) 現地レポート： Mr. DURAKU Vehbi
(コソボ帰国研修員)
- 2) 技術研修担当： 末田 元
(コースリーダー)

2015年5月25日

(公財) 北九州国際技術協力協会 研修部

JICA/KITA 技術研修コース終了後、コソボ／帰国研修員が母国で開催したワークショップの内容について便りが届きました。

今回、ご紹介する帰国研修員便りは、昨年（平成 26 年）の J I C A 国別研修コース：第 2 回「コソボ下水道対策能力向上」に参加された研修員皆さんの母国での活動報告です。本年 2 月に紹介しましたコソボ在住 JICA 専門家／照井さんレポートの続報としてご紹介します。

1. 帰国後、ワークショップを開催したコソボ研修員の J I C A 研修内容



JICA/KITA 研修コース名	第 2 回 下水道対策能力向上
研修時期	2014/10/16 ～2014/11/08
参加人数	10 名
コソボから派遣された研修員の皆さんが、北九州市（J I C A 九州）に集まり下水道に関する技術研修に参加しました。	

J I C A 研修で北九州市に滞在中だったコソボ研修員皆さんの研修風景をビデオで紹介します。（短縮版）

◆右画面をクリックしてご鑑賞下さい。



ビデオでは、北九州市河内地区での管渠管理に関する現場実習風景が紹介されています。右写真は現場実習でお世話になった関係者へサラさんからお礼の挨拶のシーンです。



2. 末田 元 コースリーダーからメッセージ



第一回目のワークショップに続き、第二回目のワークショップの情報をいただきました。前回同様、ヴェビさんからの報告です。ヴェビ (Vehbi) さんにお礼申し上げます。

今回のワークショップでの質問、研修員を含めた参加者からの意見を見ますと、下水処理場の設計、チツソ・りんの除去、汚泥処理、管渠の取り換え、下水道料金など、下水道事業を実施していくには避けて通れない事項が網羅されており、下水道事業に対する関心の深さが伝わってきます。

コソボ国の下水道事業計画では、下水処理場事業の実施可能性調査が既になされている都市も多いと聞いていますし、プリズレン市では近い将来下水処理場が稼働されます。また、ヴェビさんからの別のメールにより首都プリシュティナ郊外のバドヴィッチ (Badovici) 湖近くに下水処理場が建設されるということです。今後、コソボ国では急ピッチで下水道事業が進められていくのではないかと思います。このような背景があるからでしょう、ワークショップの参加者を見ますと、コソボ国の主要な水関係者が顔を連ねています。国を挙げて下水道事業を推進していこうという意気込みが感じられます。

ワークショップでは3時間をかけ、研修員皆さんと参加者の活発な意見交換がなされた様子がうかがわれます。日本での研修成果が活発な意見交換の場になっていることを非常にうれしく思っています。

次回の研修が最終回になります。ワークショップで出された研修要望をできるだけ次回の研修の中に組み込むことを考えています。日本での研修が役に立てばと考えています。

3. ヴェビさんからの便り

帰国研修員のヴェビさんから届いたレター (e-mail) と活動報告です。



~~~~~受信メール~~~~~

末田さん、

メールとそれから「三寒四温」という言葉についての丁寧な説明、どうもありがとうございました。ここ、コソボでは、長い冬を過ごしてきました。インフルエンザが流行ったのでその対策にみんな大変でした。今、天気は良好です。陽が射して、娘を外に散歩につれてゆくにもよいくらいの温かさです。



私たちが企画したワークショップについての返信についてご報告が遅れてしまったことについて、お許しください。やっとワークショップについての報告書を完成しましたので、このメールに添付してお送りします。ワークショップについて、全体的に述べようとしてみました。そしてこの情報が、末田さんにとって有益なものになればよいと思います。

写真も何枚か添付しました。

ヴェビ・ドウラク  
(Vehbi Duraku)

〜〜〜〜〜〜メールの添付資料〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

## コソボ 「下水対策能力向上」 帰国セミナーの開催

2015年3月5日、コソボの首都プリシュティナでワークショップを開催しました。以下がそのワークショップの詳細です。

- ① ワークショップの名称： 下水処理ワークショップ – 日本での体験
- ② ワークショップ開催所要時間： 開始 13:00 終了 16:00
- ③ ワークショップ発表者： 10名（帰国研修員の各メンバー）
- ④ 参加者 63名
  - 【主な参加者】
  - ・ 経済発展省
  - ・ 水及び廃水規制事務所
  - ・ コソボ政府水資源特別委員会
  - ・ 地域水資源公社7社の代表メンバー
  - ・ 経済地域企画省
  - ・ 土木工学建築学科
  - ・ コソボ・水と下水の協働協会
  - ・ 水資源関係で働く若年者グループ
  - ・ 環境保護協議会
  - ・ 水文気象学学術施設

### 1 ワークショップ発表者と発表内容

| NO | 発表者                          | プレゼンテーション題名             | プレゼンテーション概要                                   |
|----|------------------------------|-------------------------|-----------------------------------------------|
| 1  | フルトゥラ・サラ<br>(Flutura Shala)  | 日本における下水処理研修についてのスピーチ   | 下水処理の重要性、環境保護における下水処理の役割及び日本の研修で学んだ主題について報告。  |
| 2  | ラマダン・セジュ<br>(Ramadan Sejdiu) | コソボにおける下水事業の実情          | コソボにおける下水処理の実態と、水に関する戦略企画書に基づき将来への課題を発表。      |
| 3  | ヴァルデット・シーラ<br>(Valdet Syla)  | 日本における下水処理のタイプ          | 日本で下水処理に使用されている処理場のタイプの説明を中心に報告。              |
| 4  | アグロン・ドレシャ<br>(Agron Dreshaj) | 日本における下水管渠の管理           | 日本における下水管渠の管理について報告。                          |
| 5  | ブレリム・ダイラ<br>(Blerim Dyla)    | 下水の水質管理                 | ジャコバ (Gjakova) 内の河川の汚染に注目し、現地で同僚と一緒に河川の汚染を測定。 |
| 6  | ルミ・サラフ (Lumni Sallahu)       | 北湊における下水処理場での下水処理及び汚泥処理 | 北湊下水処理場における水処理と汚泥処理について報告。                    |

|    |                                  |                       |                                                                                 |
|----|----------------------------------|-----------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 7  | スケンデル・ラマダニ<br>(Skender Ramadani) | 浄化槽システム               | ジラン (Gjilan) 内の河川の実態について説明し、汚染から水資源を守るために浄化槽システムを使うことを提案。                       |
| 8  | ルリ・パサリジ<br>(Lulzim Paçarizi)     | プリズレンにおける下水処理施設実施の見通し | コソボのプリズレンにおける下水処理場について説明報告。                                                     |
| 9  | アグロン・ティガニ<br>(Agron Tigani)      | ペチにおける下水処理施設実施の見通し    | コソボのペチにおける下水処理場について説明報告。                                                        |
| 10 | ヴェビ・ドゥラク<br>(Vehbi Duraku)       | 日本における下水道使用料金         | 日本における下水道使用料金について、また、コソボにおける料金の概論を説明。また、料金政策に関してはコソボにおいては議論が起きるのではないかという意見も出した。 |

## 2 プレゼンテーションに対する参加者からの質問リスト

### ①フィゲン・アメディ (Figene Ahmedi) – プリシュティナ大学教授

プリズレンにおける下水処理場について、「下水処理について集合処理システムを使用しているのか。また、なぜ取り込まなかった村があるのか。コストの問題か。」と質問。

### ②シゲリ・デマク (Shyqeri Demaku) – 環境地域企画省

全ての水資源事業と下水事業に対して、下水処理場の実施設計を開始する際は、環境地域省による設計基準を必ず考慮にいれなければならないということを強調した。

### ③ファルク・ハリジ (Faruk Hajrizi) – 地域水資源公社 (RWC) 「ミトロビツァ」ディレクター

プリズレン市で下水処理場の実現可能性調査が実施された理由は何か。窒素とリンの処理についての提言がない。

### ④アグロン・サラ (Agron Shala) – 水文気象学学術施設

料金の統一に関して、水及び廃水規制事務所 (WWRO) の料金政策に言及した。

### ⑤ムハメット・スリキ (Muhamet Suliqi) – 地域水資源公社 (RWC) 「ヒデロモラヴァ」ジラン地区責任者

ルミ サラフ (Lumni Sallahu) に対し、将来的には汚泥処理のためにどのような計画があるのか質問。

### ⑥シケリ・デマク (Shyqeri Demaku) – 環境地域企画省

全参加者に対して、汚泥について、近年、省の発表している汚泥に関する指示書を参考するよう呼びかけた。



### 3 ワークショップ参加者からのフィードバック

ワークショップに対する参加者の意見を掬い上げるために、以下の質問を含む質問票を用意した。

1. セミナーは有益あるいは有意義で、下水処理事業にとって将来的な改革の手がかりを得ることができたか？
2. 今後のために、どのトピックについてさらに知りたいか？
3. セミナーに対するあなたの全体的な評価は？

| ← 優れている |   |   | 劣っている→ |   |
|---------|---|---|--------|---|
| 5       | 4 | 3 | 2      | 1 |
|         |   |   |        |   |

この質問票には、参加者と我々（2014年に日本での研修に参加した研修員）が記入した。以下は、寄せられたフィードバックの要約である。

セミナーは有益あるいは有意義で、下水処理事業にとって将来的な改革の手がかりを得ることができたか？

- ・ はい。
- ・ よいプレゼンテーション、生産的なプレゼンテーションだった。
- ・ はい。料金と管の取り換えについて有意義だと思った。
- ・ 満足した。コソボでもやれると思った。
- ・ 下水処理について新しい技術を知ることができた。
- ・ もう少し詳細に述べたほうがよかった。
- ・ 技術についての的確な説明を聞いたプレゼンテーションがいくつかあった。
- ・ プレゼンテーションの中で、環境保護の重要性について深く言及していた。
- ・ 視覚に訴えるプレゼンテーション資料だった。
- ・ 音響が良くなく、後部の席にいと聞こえなかった。
- ・ これらのプレゼンテーションから、将来、下水処理をどのようにすべきかの好例が見つかると思う。
- ・ 日本で得た体験とコソボでの問題には、興味深い関連があると思う。
- ・ 日本での下水処理技術について考えてみると、コソボでは使われていない技術だ。しかし、次回の研修では、コソボに応用可能な技術について学ぶことができると思う。

今後のために、どのトピックについてさらに知りたいか？

- ・ 下水処理場のプロジェクト設計標準
- ・ 人口 2000 人から 3000 人に対する下水処理
- ・ 下水処理場プロジェクトの設計方法
- ・ 関連省庁からの下水処理場の運転管理取得の手順
- ・ BOD5, COD, N, P 及び SS の決定要因はなにか？

- 将来的な汚泥処理問題の中の、汚泥処理とその課題についての情報
- 下水処理、汚泥処理及び管渠の管理
- コソボの下水の実情についての情報と、どのように下水処理場がコソボで設立されつつあるのかについての情報
- 処理済みと未処理の下水の分析
- 放流される下水の水質と場所による下水処理技術の選定について
- データは関連する学術施設にどのように報告されるか
- 下水処理場についての個別情報
- 研修の最終回で訪問する予定の、主に散水ろ床法を使用したバイオ処理関係
- コソボに最も適した下水処理場の型

セミナーに対するあなたの全体的な評価は？

◆（評価の平均：4.14）

## 4 ワークショップの会場風景

